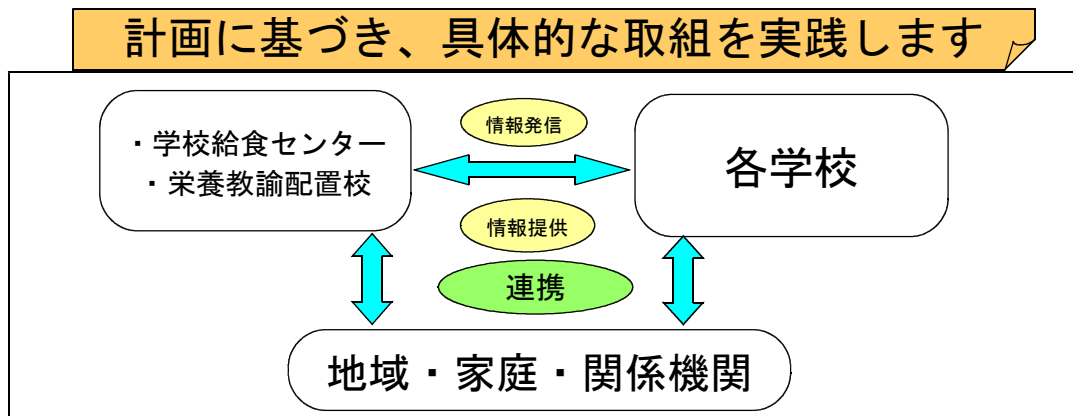
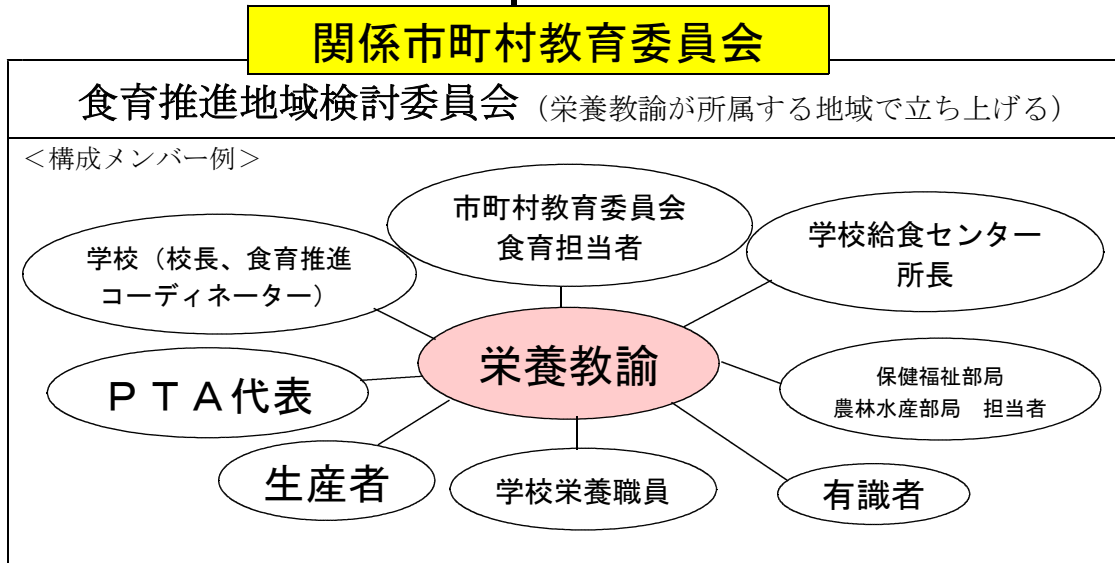
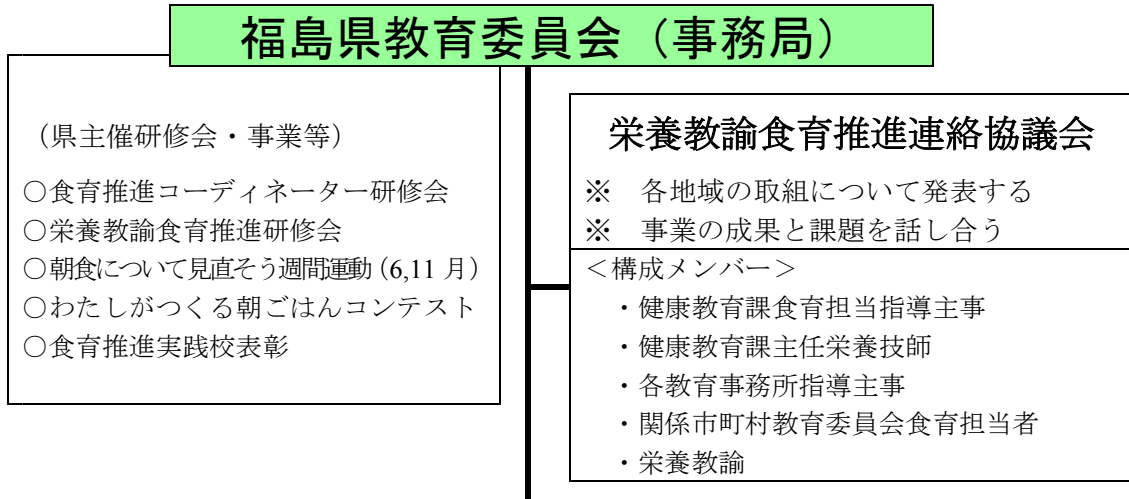


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

| | |
|-------|------------|
| 都道府県名 | 福島県 |
| 推進地域名 | 全域(19推進地域) |

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ1 栄養教諭による各地域・各学校の実態に応じた食育推進

1 食育推進地域検討委員会の開催

栄養教諭が所属する地域ごとに食育推進地域検討委員会を立ち上げ、地域の課題解決のためのテーマと推進計画について話し合った。

委員の構成については、各地域異なるが、学校関係者や地元生産者、PTA代表等が加わり、それぞれの立場から意見を出し合い、課題解決に向けて事業を進めた。

2月には、第2回食育推進地域検討委員会を開催し、各地域の成果と課題について話し合った。

2 栄養教諭受配校等訪問（食育としての授業、食に関する指導等の実施）

栄養教諭が受配校等に出向き、各学校の食育を支援した。児童生徒の実態把握に努め、学級担任との事前打合せを大事にしながら、T2としての役割を果たした。11月からは、県の食育担当指導主事も栄養教諭の授業参観に出向き、栄養教諭の指導力向上を図った。



<児童に寄り添った支援>



<発達段階に応じた視覚に訴える資料を準備して>



3 高校生のための栄養教室の実施

各学校の課題解決に向けて、栄養教室を希望する高等学校に栄養教諭を派遣した。県立高等学校95校中50校で実施し、実施した高等学校からは「満足できる内容であった」と好評価を受けた。

4 栄養教諭食育推進連絡協議会の開催

各食育推進地域での取組について発表し合い、各地域の成果と課題について共通理解を図った。

| | |
|--------------------|------------------|
| 栄養教諭食育推進連絡協議会（県北） | 1/21 福島県青少年会館 |
| 栄養教諭食育推進連絡協議会（県中） | 2/4 県中地方振興局 |
| 栄養教諭食育推進連絡協議会（南会津） | 2/5 南会津合同庁舎 |
| 栄養教諭食育推進連絡協議会（相双） | 2/7 南相馬市役所 |
| 栄養教諭食育推進連絡協議会（いわき） | 2/18 いわき合同庁舎南分庁舎 |
| 栄養教諭食育推進連絡協議会（会津） | 2/19 会津地方振興局別館 |
| 栄養教諭食育推進連絡協議会（県南） | 2/20 白河合同庁舎 |



今年度の成果と課題について話し合うとともに、来年度も地域のネットワークを構築しながら食育に力を入れていこうと確認した。

テーマ2 食育指導者の資質向上を図る取組

1 食育推進コーディネーター研修会の開催

各学校の食育推進の中心的担い手である食育推進コーディネーターを対象とした研修会を、県内大学教授及び栄養教諭、主任栄養技師等を講師として実施した。食育推進コーディネーターの役割について再確認することができた。

| | | | |
|-----------|-------------------|------|------|
| 8月 7日 (火) | 県北・相双地区 (AOZ) | 参加者数 | 132人 |
| 8月 8日 (水) | 県中・県南地区 (須賀川産業会館) | 参加者数 | 144人 |
| 8月 9日 (木) | 会津・南会津地区 (新鶴公民館) | 参加者数 | 88人 |
| 8月10日 (金) | いわき地区 (いわき合同庁舎) | 参加者数 | 104人 |



食育推進コーディネーターとしての役割や栄養教諭の実践発表を聞き、2学期からの見通しをもつことができた。

2 栄養教諭食育推進研修会の開催

栄養教諭の資質向上を図るための、1日研修を実施した。

| | |
|-------|---|
| 日時・場所 | 12/10 福島県青少年会館 |
| 研修内容 | ○講演 「食育の推進と栄養教諭の役割」 (公財) 学校給食研究改善協会理事 淑徳大学看護栄養学部栄養学科客員教授 田中 延子 氏 |
| | ○講話 「栄養教諭に期待すること」 教育庁健康教育課長 会田 智康 |
| | ○実践発表 「学校給食における食事摂取基準の活用に向けて」 西郷村学校給食センター栄養教諭 亀田 明美 |



学校給食においても個に応じた栄養管理が大切になってくる。
栄養管理・衛生管理と食に関する指導とのバランスが大切である。

3 食育関係事業全国連絡協議会への参加

県の主任栄養技師と栄養教諭2人で参加。他県の実践発表とともに、来年度の食育事業の方向性について話を聞き、来年度の県としての見通しをもつことができた。

テーマ3 食を要とした基本的な生活習慣の確立を目指す取組

1 朝食について見直そう週間運動（朝食摂取率 100 %週間運動）の実施

食育月間である6月を中心に、各学校の実態に応じて上記週間を設け、栄養教諭を中心に第1回朝食について見直そう週間運動を展開した。実施した幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の摂取率平均は96.6%であった。

11月に実施した第2回朝食について見直そう週間運動は96.7%で、昨年度の11月より0.4ポイント向上した。

2 わたしを作る朝ごはんコンテストの開催

食べる力の育成を目的に、小学生を対象にわたしを作る朝ごはんコンテストを実施した。応募総数は227校4,108点で、過去最高の応募数であった。調理コンテストでもある最終審査を、10月21日（日）に福島県学校給食会調理室にて実施した。



<緊張しながらも練習の成果を発揮した児童>



<最優秀賞に輝いた作品

～夏のインゲンづくしメニュー～>

3 食育推進実践校表彰

朝食を見直そう週間運動を中心に、食育の成果を上げた学校を表彰した。（応募学校数 35校）

最優秀校 1校

優秀校 3校

優良校 5校



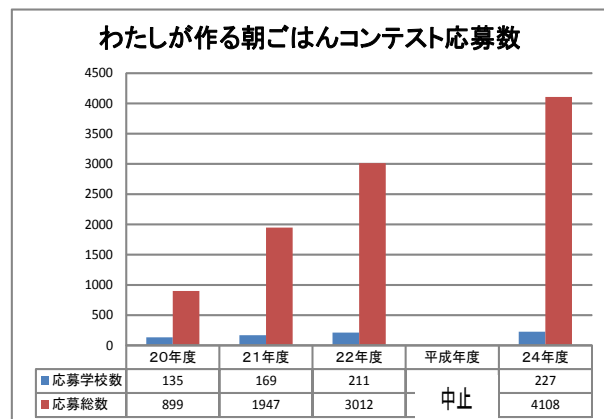
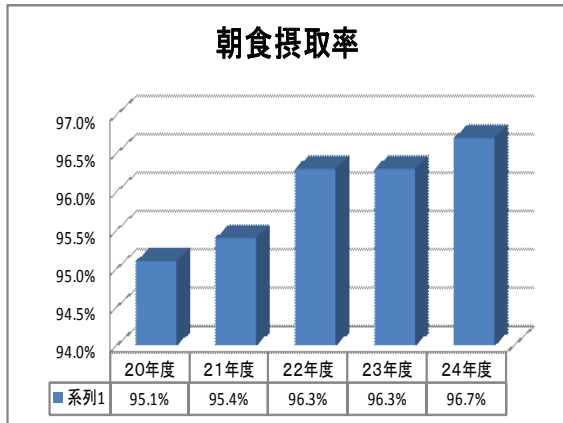
～最優秀校の取組から～
保健委員会の児童が、全校朝会で劇を行い、朝食の大切さを全校生に呼びかけている様子

テーマ1～3に共通する具体的計画

- 昨年同様、今もなお地域によって東日本大震災の影響に差があるため、地域の実情に応じた食育を推進していく必要がある。
- 食育を全県広域的に推進していくためには、学校、家庭が共に食の大切さを認識しなければならないことから、一人一人の意識が高まるような事業を展開していく。
- 本県の健康課題「肥満」「う歯」「性」の解決には、食に関する指導が大きな役割を果たすことから、体力向上と関連させながら、食育を進めていく必要がある。

本事業における評価指標と考察

- ① 朝食摂取率 96.3% (平成23年度) → 96.7% (平成24年11月調査)
 ※ 年度当初の指標を上回り、朝食を食べる児童生徒が増えてきたが、朝食内容については課題が残る。
- ② 地場産物活用率 ※ 東日本大震災の影響があり、評価指標を示すことは困難な状況ではあるが、安全を確認した上で活用率向上を目指す。
- ③ 残食率 ※ 県としては取りまとめていないが、栄養教諭が所属する学校及び学校給食センターの平成24年度残食率平均は4.6%
- ④ わたしが作る朝ごはんコンテスト応募数 3,012点 (平成22年度) → 4,108点
 ※ 年度当初の指標を上回り、多くの児童が応募し内容もすばらしかった。



- ⑤ 食育全体計画の作成率
 (小学校100%、中学校99.6%、高等学校66%、特別支援学校95%)
- ⑥ 各学校における食育推進コーディネーターの位置付け
 (小学校98%、中学校97%、高等学校88%、特別支援学校82%)
 ※ すべての校種において100%となるよう指導していく。

本事業の成果

昨年度は震災の影響があり、計画していた事業の多くを中止しなければならない状況であったが、今年度は計画通り事業を進めることができた。

- 朝食摂取率が、96.7% (11月調査) であった。目標としていた指標を上回ることができた。
- わたしが作る朝ごはんコンテストの応募数が22年度を大きく上回り4,108点であった。食の安全・安心が求められる中、地域の食材や旬の野菜を活用した献立も多く見られた。
- 昨年度中止となった「食育推進コーディネーター研修会」を今年度は実施することができた。食育推進の中核となる栄養教諭をサポートする、校内食育担当者が研修を受けたことにより、各学校の食育推進のポイントを確認することができた。
- 栄養教諭が所属する地域で検討委員会を立ち上げ3年目を迎える。栄養教諭を中核とした地域のネットワークが構築されつつある。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- 食育推進コーディネーター研修会の時、食育担当者の意識を高めるだけでなく、各学校の管理職の意識を高めていただきたいとの要望があった。管理職の意識啓発を含め、各学校の指導体制の充実がますます重要になってくると考える。
 さらには、地域による温度差も見られるので、各市町村教育委員会及び関係部局のさらなる協力が得られるよう、ネットワークの構築の仕方等を県としても検討していく必要がある。
- 平成24年度学校保健統計調査速報によると、福島県の肥満傾向児出現率は、女子16歳を除き各年齢で高くなっている。体育やスポーツ活動の充実と併せて、個に応じた栄養管理及び食事のとり方についても指導していかなければならない。